

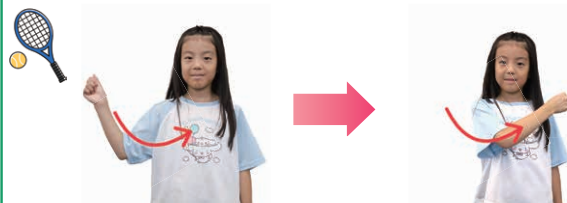


「すぐ」使える手話講座

手話は言語です。日常で簡単に使える手話を紹介します。
今回は、スポーツに関する手話です。
皆さんも使ってみてください。

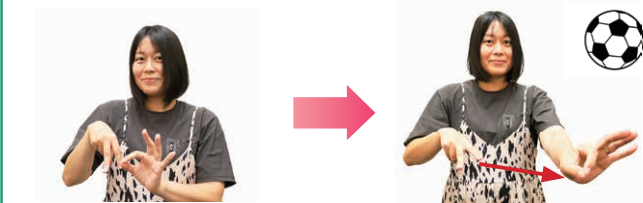
テニス

胸の高さでグーにした右手を左方に振ります。テニスのラケットを振る仕草です。



サッカー

- ①左手の人差し指と親指で輪を作ります。右手の人差し指と中指を指先を下にして伸ばします。
- ②右手の人差し指と中指で、左手の輪を弾きます。ボールを蹴る様子を表します。



次回の手話講座は、広報つるが 1 月号 (12 月 8 日発行) に掲載します。お楽しみに！

ウォンボムさんの敦賀研修ダイアリー Vol.5

姉妹都市である韓国東海市と職員相互派遣事業を行っています。今年は、東海市から 20 人目の研修員として、金源範さんが、11 月まで市役所で研修を受けています。

8 月は政策推進課、原子力安全対策課、情報管理課、財政課、農林水産振興課、商工貿易振興課で研修を受けました。

政策推進課では、市立看護大学を見学しました。1 学年の定員が 40 人ほどの小さい大学でしたが、現代的な医療施設を備え、専門スタッフが学生をしっかりサポートしながら優秀な看護師を育てている姿が印象的でした。

原子力安全対策課では、日本原子力研究開発機構を訪問しました。東海市には原子力発電所がないため、発電所に入る経験自体が初めてでした。「ふげん」では廃炉作業が進む発電所内部を見学しましたが、見学中に着た防護服や暑い施設内の環境から、現場の職員の皆さんの苦勞を深く感じました。原子力発電はエネルギーの効率が高いですが、使った後の処理や管理に重い課題があることが分かりました。また、日本原子力発電(株)では、地震に対する安全性について学ぶことができました。

情報管理課では、市役所のネットワークシステムを見て回ったり、最近導入された AI システムなどについて学んだりしました。

農林水産振興課では、イノシシ、シカ、クマなどの有害野生動物の対策現場を見学しました。韓国よりも野生動物の数がとて多いと感じました。特に韓国では珍しいクマの出没も、日本では出没回数が多く、地域の安全を守る現地のハンターの皆さんの活躍に大きく感動しました。



阿曾相撲甚句を披露する住民

奉納された赤崎獅子舞
(演目：獅子取)

踊りや舞い奉納 五穀豊穰願う 9 月 20 日 阿曾相撲甚句 赤崎獅子舞

県無形民俗文化財に指定されている「阿曾相撲甚句」と「赤崎獅子舞」がそれぞれの区内の神社で奉納されました。

阿曾相撲甚句は阿曾で 350 年続くとされ、利稔八幡神社で奉納されました。代々家に伝わる化粧まわしを身に着けた 10 人の力士が境内の土俵で相撲甚句を披露。「ヤストコ、ヤストコ、ヤストコ、ジョイ」と声をあげながら踊りました。子ども相撲甚句を披露した山中暖士さん(東浦中 2 年)は「友達を誘って来た。相撲甚句をいろんな人に知ってもらいたい。」と話していました。

赤崎獅子舞は江戸時代から続くとされ、赤崎八幡神社の秋季例祭で奉納されました。赤崎獅子舞奉賛会の会員ら 17 人が 6 種の演目を披露。笛や太鼓に合わせ、踊り子が鈴と幣を持って踊る「鈴の舞」などを演じました。同会長の東山裕紀さんは「少子高齢化もあり、年々開催が大変だが、今後も継承していきたい。」と話していました。

レシピ開発に挑戦！ 9 月 18 日 おぼろ昆布レシピ開発

敦賀高校で、商業・情報経理科の生徒ら 9 人がおぼろ昆布を用いたレシピの試作を行いました。この取り組みは、おぼろ昆布を広く家庭で使用してもらおうと市が同高に相談。イベントなどでのレシピ配布を目指し、今年の 4 月から課題研究の授業の一環でレシピ開発に取り組んできました。生徒らは班に分かれ、パスタやお茶漬けなど、試行錯誤しながらさまざまなレシピを試作しました。川合優月さん(3 年生)は「繊細なおぼろ昆布の味を生かす工夫をした。このレシピを機におぼろ昆布がより身近なものになると嬉しい。」と話していました。開発されたレシピは 10 月 17 日に第二早稲幼稚園で行われる「秋色のマルシェ」での配布が予定されています。(柏原優来)
※本記事はオープン・カンパニー(会社見学)に参加した学生が、職員と協力して取材・原稿作成を行いました。



まちを彩る、敦賀の秋の風物詩 9 月 2 ~ 5 日 敦賀まつり

敦賀に秋の訪れを告げる「敦賀まつり」が開催されました。初日は「宵山巡行」が行われ、宵山の上で子どもたちが笛や太鼓のお囃子に合わせ、華麗な踊りを奉納しました。3 日には、氣比神宮のご神体を奉った神輿が街を練り歩く「御鳳輦巡幸」「神輿渡御」が行われました。雨のため 4 日の「山車巡行」は中止となりましたが、「みなとつるが山車会館」で山車が展示されました。また、「つるが鳶隊」が雨の中、力強く華麗な技を披露。夜には「民謡踊りの夕べ」が開催され、会場は祭りの熱気に包まれました。最終日の 5 日には、マーチングや仮装、電飾パレードなど 21 団体による「カーニバル大行進」が行われ、沿道を華やかに彩りました。天候に左右されながらも、各会場は多くの人でにぎわい、敦賀の伝統と活力を感じる祭りとなりました。



多彩な音楽におぼれたい！ 9 月 12, 13 日 おぼろっく 2026

敦賀市の大規模音楽フェス「おぼろっく 2026」が、市民文化センターときらめきみなと館の 2 会場で開催されました。3 回目となる今回は、2 日間で約 8,000 人が来場。Hump Back、プッシュプルボットをはじめ、計 14 組のアーティストが出演し、迫力あるライブパフォーマンスに会場は大きな歓声と熱気に包まれました。金ヶ崎緑地にはキッチンカーや敦賀自慢の「うまいもん」が並び、来場者は音楽とともに敦賀の食も満喫。今年は学生を対象とした無料招待も実施され、幅広い世代が音楽を通して敦賀の魅力に触れました。参加者からは「アーティストとの距離が近く、表情まで見ることができて楽しかった。会場も一体感があって盛り上がった。」と喜びの声が聞かれました。



高校生 敦賀の将来について意見交換 9 月 8 日 市長と語る会(高校生対象)

高校生を対象とした「市長と語る会」が市役所の市長室で行われ、敦賀市高校生合同文化祭「TonTeen」の実行委員会メンバー 9 人が参加しました。この会は市内 10 地区をめぐり「市長と語る会～お出かけ市長室～」の一環として開催。若い世代の意見を聴こうと市が企画し、同実行委員会に協力を呼びかけました。高校生らは、自分が市長になったと想定し、「若者の遊び場づくり」や「通学路の安全確保」などについて米澤市長に提言しました。米澤市長は「高校生の皆さんがそれぞれ自分の考えをしっかりと持っていて、こちらも真剣に答えなければならないと感じた。将来の敦賀を担う世代を大変頼もしく思う。」と語る会を振り返りました。坂口奏音さん(敦賀高校・2 年生)は「観光ボランティアや TonTeen の活動の中での問題意識を市長と話すことができた。自分たちの想いが市政に反映されるかもしれないと思うとうれしい。」と話していました。